

# 令和6年度 檜山地域づくり連携会議議事録

日 時：令和6年（2024年）8月8日（木）14:00～15:30

場 所：江差町文化会館（檜山郡江差町字茂尻町71番地）

出席者：別紙出席者名簿のとおり

議 題：(1) 「道南連携地域政策展開方針」について  
(2) 「地域づくり推進ビジョン」について

意見交換：檜山地域のポテンシャルを活かした地域の持続的発展に向けて

## 【檜山振興局 細川地域創生部長】

定刻より若干早いですけれども、皆様お揃いですので、ただ今から令和6年度檜山地域づくり連携会議を開催いたします。

私は会議の進行を務めます、檜山振興局地域創生部長の細川と申します。本会議は、北海道総合開発計画を推進する国と北海道総合計画を推進する道の共催によりまして、国、道、各町や民間団体などの地域の多様な主体が地域の将来像を共有し、それぞれの役割分担のもと、連携・協働による地域づくりを進めることを目的に開催しております。なお、本日の会議の議事内容につきましては、北海道文書管理規程に基づき議事録を作成し、当振興局のホームページに掲載いたしますので、あらかじめご承知おき願います。

まず、お手元の配付資料の確認をさせていただきます。次第、出席者名簿、配席図、資料1-1から資料6までを配付しております。資料に不足がある場合は事務局までお声がけください。

それでは開会に当たりまして、本会議の主催者よりご挨拶申し上げます。初めに北海道開発局函館開発建設部の岡下部長よりお願いいたします。

## 【函館開発建設部 岡下部長】

ご紹介いただきました、函館開発建設部の岡下でございます。本日はご多忙の中、檜山地域づくり連携会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、日頃より北海道開発行政の推進にご理解とご協力いただき、重ねてお礼申し上げます。

今年3月、第9期目となる「北海道総合開発計画」が策定されました。本計画では、食・観光・脱炭素化といった北海道の価値・ポテンシャルを最大化し、急速に進む人口減少や広域分散型社会の課題を乗り越え、多様な主体と「共に北海道の未来を創る」ことを目指しています。そして、先月には、北海道の政策の基本的方向を示す新たな「北海道総合計画」が策定されました。

国及び北海道では、両計画を効果的に推進するため、北海道内6圏域において、その地域の現状・課題や特性に応じた「地域づくり推進ビジョン」を策定しております。今般、国と道の両計画が装いを新たにしましたので、新たなビジョンを策定することとなります。後ほど、ビジョンの案をご紹介させていただきます。

また、本日の会議では、「檜山地域のポテンシャルを活かした地域の持続的発展に向けて」をテーマに意見交換をお願いしております。地域の持続的発展につなげるためには、多様な主体が総力を結集し、分野・垣根を超えた連携・協働により新たな価値を生み出す、

まさに「共創」の取組を進めていくことが重要です。是非そういった観点のお考えなどもお聞かせいただきたいと思っております。

本会議は、国、そして道の両計画を各地域において効果的に推進していくために、貴重なご意見を伺える機会として考えております。皆様からの忌憚のないご意見、活発なご議論をいただければ幸いです。

それでは、本日はどうぞよろしく願いいたします。

### 【檜山振興局 細川地域創生部長】

ありがとうございました。続きまして、北海道檜山振興局長の笠井よりご挨拶申し上げます。

### 【檜山振興局 笠井局長】

皆様お疲れ様でございます。檜山振興局長の笠井でございます。本日の檜山地域づくり連携会議の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日ご出席いただきました、各町長・副町長、関係団体の皆様におかれましては、お忙しいところご対応いただきましたことに感謝申し上げます。今、岡下部長の方からも国の9期計画について話がありましたが、道においても、人口減少の進行、デジタル化やゼロカーボンへの対応など、直面する課題を乗り越え、持続可能な北海道を実現していくことと併せて、時代の先を見据え、中長期的な展望に立って、政策を進めるため、先月、道の新たな総合計画を策定させていただいたところです。この計画で、目指す姿としまして、「北海道の力が日本そして世界を変えていく 一人ひとりが豊かで安心して住み続けられる地域を創る」ことを目指して、道民と一体となって、計画に基づく各分野の政策を進めていくためにも、広く道民の方々の理解と共感を得られるよう、努めてまいる考えでございます。

また、振興局としましては、現在「道南連携地域政策展開方針」の策定に向けて取組を進めているところでございます。この方針につきましては、道の総合計画が示す政策の基本的方向に沿って、広域的な地域の区分ごとに地域振興を効果的に推進するための地域計画としての位置づけと、こちらも現在策定作業を進めている次期創生総合戦略の地域戦略としての位置づけを併せ持つものでございます。

この展開方針の策定に向けまして、本日の会議でのご意見も参考にしながら策定作業を進めていきたいと考えておりますので、皆様の忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

本日はどうぞよろしく願いします。

### 【檜山振興局 細川地域創生部長】

ありがとうございます。本日の出席者については、お手元の出席者名簿に記載のとおりですので、紹介は割愛させていただきます。なお、出席予定でした檜山地区町社協連絡協議会の林会長につきましては、急遽欠席となりましたことをご報告申し上げます。

では、以降の議事進行につきましては、檜山振興局の笠井局長にお願いいたします。

### 【檜山振興局 笠井局長】

それでは、以降については私の方で議事を進めさせていただきます。皆様におかれましては、議事進行へのご協力をお願いいたします。

まず、お手元の次第の「3 議題」の1つ目の「道南連携地域政策展開方針」につきまして、檜山振興局から説明いたします。

### 【檜山振興局 山本地域政策課長】

檜山振興局地域政策課長の山本と申します。よろしくお願ひいたします。着座にて説明させていただきます。

私から「道南連携地域政策展開方針」についてお手元に配付しました資料1-1、資料1-2及び資料1-3によりご説明させていただきます。「道南連携地域政策展開方針」では地域のめざす姿の実現に向けて、地域の強みや可能性などを活かし、地域の多様な主体と連携・協力しながら、6つのプロジェクトに取り組んでおります。各プロジェクトにおける令和5年度の道南連携地域の取組については後ほど資料1-1をご覧ください。

続いて資料1-2をご覧ください。ただいま現行の展開方針の取組状況について触れさせていただいたところですが、「2.策定の趣旨・考え方」に記載のとおり、道では、本年7月に新たな総合計画を策定し、また、現在、人口減少対策に係る次期創生総合戦略の策定も進めております。これらが示す基本的な方向に沿って今年度中に次期連携地域別政策展開方針、檜山地域においては渡島地域と連携した「道南連携地域政策展開方針」を策定予定です。先ほど振興局長の挨拶でもお話ししたとおり、展開方針は、北海道総合計画における地域計画、また、北海道創生総合戦略の地域戦略としての位置づけを併せ持つものであり、本日の檜山地域づくり連携会議の場をはじめ、様々な機会において地域の実情や課題を把握した上で内容を検討し、道議会での議論はもとより、各町の皆様への意見照会、パブリックコメントなどを経て策定いたします。

続いて資料1-3をご覧ください。こちらが次期「道南連携地域政策展開方針」の振興局案となっております。資料1-3-1については、これから説明することの概要版となっているため、資料1-3-2から説明いたします。まず、資料1-3-2の19ページをご覧ください。檜山地域を含む道南連携地域においては、現行の展開方針と同様に6つのプロジェクトに重点的に取り組む予定です。それでは、それぞれのプロジェクト毎に取り組む内容について簡単に触れさせていただきます。20ページをご覧ください。1つ目は、北海道新幹線の札幌開業を見据えた交流・定住促進プロジェクトです。ポストコロナ禍における観光需要の高まり、コロナ禍を経た新たな働き方などの動向を的確に捉え、また、北海道新幹線の開業も見据え、地域資源を最大限に活かしながら、交流人口や関係人口等の創出・拡大に向けて取り組むものです。道南の多様な魅力を活かした移住・定住及びワーケーション等の推進、地域と学校の連携・交流を促す地学協働に係る取組の推進などに取り組んでまいります。

次に、23ページをご覧ください。2つ目は、道南の優位性を活かしたゼロカーボンプロジェクトです。本道において2050年までに「ゼロカーボン北海道」を実現するとの目標を掲げる中、檜山地域は風力発電などの再生可能エネルギーの導入ポテンシャルが非常に高く、CO<sub>2</sub>の吸収源となる森林が土地面積の8割を占めるなど、大きな強みを有しており、これらの地域特性を活かしてゼロカーボン北海道の実現に貢献するために取り組むものです。檜山沖における洋上風力発電事業の実現に向けた取組の推進、建築物のZEB化・ZEH化への誘導などに取り組んでまいります。

次に、26ページをご覧ください。3つ目は、地域に根差した農林水産業の持続的発展プロジェクトです。こちらは、原材料価格の高騰、担い手の減少や高齢化など厳しい環境に直面している中、製品のブランド化や適正な資源管理などによる付加価値の向上、販路拡大やデジタル技術を活用した生産体制の高度化・省力化などへの対応に向けて取り組むものです。農林水産業への新規就業に繋がる担い手対策の推進、道南スギなどの地域材の利

用促進・付加価値向上などに取り組んでまいります。

次に、29ページをご覧ください。4つ目は、暮らしの安全・安心を支えるまちづくりプロジェクトです。道南連携地域は、人口減少の進行が顕著な地域であることから、将来にわたりこの地域で安心して暮らしていくために、地域住民や自治体などと連携のもと、地域防災の充実強化や、地域全体の医療体制や交通体系の最適化に向けて取り組むものです。持続的な公共交通ネットワークの構築、新興感染症に備えた医療提供体制の整備や、地域医療の確保などに取り組んでまいります。

次に、32ページをご覧ください。5つ目は、地域の強みを活かした産業活性化・雇用創出プロジェクトです。バラエティ豊富な地域産品、恵まれた地域の自然資源といった強みを活かすべく、食・観光などの地域を支える産業振興等を推進し、若年層を中心とした地元への定着及び雇用の創出を図るために取り組むものです。若年層を対象とした企業説明会の開催や、事業者などを対象としたセミナー等の開催による外国人材の受入れ、多文化共生についての理解の促進などに向けて取り組んでまいります。

最後に34ページをご覧ください。6つ目は、縄文遺跡群などを活用した魅力発信と誘客促進プロジェクトです。檜山管内には歴史的魅力や特色を通じた伝統を語るストーリーが日本遺産として認定されたほか、北海道遺産や特徴的な文化財などが数多くあることから、これらの魅力ある地域資源を活用し、観光など地域産業の活性化に繋げ、貴重な資源を最大限活用した取組を推進し、魅力あふれる地域づくりに取り組むものです。日本遺産などの地域資源を活用した商品開発・販売の促進などに取り組んでいきます。

以上、手短ではありますが、私からの説明とさせていただきます。なお、情報提供として、資料5及び資料6を机上に配付しておりますので、後ほどご覧ください。

ありがとうございました。

### 【檜山振興局 笠井局長】

ただいま、「道南連携地域政策展開方針」についてご説明させていただきましたが、これにつきまして、ご意見、ご質問などはございませんでしょうか。

(質問・意見等なしの声)

お気づきの点等ありましたら、後ほどご発言いただければと思いますので、次に進めさせていただきます。

それでは「3 議題」の2つ目の「地域づくり推進ビジョン」について、函館開発建設部様からご説明お願いいたします。

### 【函館開発建設部 山田地域連携課長】

函館開発建設部地域連携課長の山田でございます。私からは、地域づくり推進ビジョンの説明をさせていただきます。

まず、資料2-1をご覧ください。地域づくり推進ビジョンは、国が策定する北海道総合開発計画と北海道が策定する北海道総合計画の施策・事業を効果的に推進するため、今後10年のビジョンを示すものとなります。先ほど、部長の岡下からも説明ありましたとおり、両計画が新しくなったことから、本ビジョンについても新たに策定することとなります。ビジョンは、この檜山地域づくり推進会議の場を活用しまして、検討・共有し、また、推進状況についても適時にフォローアップを行っております。参考で配付しておりますが、資料2-5が現行の地域づくり推進ビジョンの推進状況となります。今回は新たなビジョンの紹介をさせていただきますので、本資料の説明は省略させていただきます。

続きまして、資料2-2をご覧ください。こちらは国が策定する北海道総合開発計画です。この計画は、北海道の資源・価値・ポテンシャルを活用し、我が国の課題解決に貢献するというものです。この9期計画の策定の背景には、ウクライナ侵略による食料安全保障の危機、新型コロナウイルス感染拡大の影響、2050年カーボンニュートラルへのコミット等の世界規模の社会環境の大きな変化がありました。本計画では、北海道の価値・ポテンシャルとして、前計画と同様に食と観光を掲げ、それに加えまして、新たに脱炭素化を掲げております。北海道の価値・ポテンシャルは、市街地ではなく、主に地方部で生み出されております。私どもは、その地域のことを、ポジティブな意味を込めて「生産空間」と呼ばせていただいております。しかしながら、生産空間は厳しい人口減少に直面しており、そして広域分散型の地域構造という大きな課題を有しております。そのため、資料の右上となりますが、本計画では目標を2つ掲げており、目標1つ目は「我が国の豊かな暮らしを支える北海道」とし、北海道の価値・ポテンシャルを最大化いたします。そして、目標2つ目は「生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり」とし、生産空間の定住環境を維持してまいります。そして、計画の進め方としましては、右下の図にありますが、「共に北海道の未来を創る」というフレーズにあるとおり、「共創」を重要なキーワードに多様な主体と連携・協働して推進してまいりたいと考えております。裏面は、2つの目標に対応する施策の紹介となりますが、ここでの説明は割愛させていただきます。

続きまして、資料2-3を用いて、新しい地域づくり推進ビジョンの説明をさせていただきます。それでは資料2-3の表面をご覧ください。こちらは道南連携地域のめざす姿と地域の現状・課題を整理したものでございます。国の方の開発計画はオール北海道の視点で描かれていることから、こちらは先程振興局からご説明のあった「道南連携地域政策展開方針」の内容を受け、整理させていただいたものとなります。なお、国と道の両計画の扱うテーマには少し濃淡がございますので、それに共通のテーマとして黒括弧の「食」、「観光・交流」、「産業・雇用」、「脱炭素・環境」、「暮らし・社会基盤」と5つのテーマに整理しております。次に裏面をご覧ください。先ほどの5つのテーマに沿って、縦に「食」、「観光・交流」、「産業・雇用」、「脱炭素・環境」、「暮らし・社会基盤」と5つのテーマが並んでおります。そして、そのテーマに対して、地域のめざす姿を実現するための国と道が主体となる各プロジェクトを整理しております。各プロジェクトのところには赤字のものと青字のものがございますが、赤字は国が推進主体となるもの、青字は北海道が推進主体となるものです。北海道の青字のプロジェクトは、先程振興局から説明のあった政策展開方針の6つの地域重点政策ユニットの内容と完全に一致します。

それでは、国のプロジェクトの一例を紹介いたします。2列目に「観光・交流関連プロジェクト」というものがございまして、その下の方に「魅力あふれる観光地域づくりプロジェクト」という赤字のものがございます。それでは「地域づくり推進ビジョン」の本体であります資料2-4を用いて説明いたします。こちらの12ページ目をご覧ください。表のタイトル部では、プロジェクト名や推進主体を整理しております。その下には主な取組ということで大きめの欄に書いております。まず、○やポツで施策を項目で掲げておりまして、右の方を見ていただくと黒括弧で主な基盤整備という表示があります。ここでは、当部が整備する道路、港湾、漁港、農業など、具体的な事業がリストアップしております。また、市・町からも本プロジェクトに関連する事業を聴取しておりまして、例えば13ページの江差町のみなどオアシスやせたな町、奥尻町のマリンビジョンのように、市町村の事業もこちらで整理しております。このように、「地域づくり推進ビジョン」では、国や北海道などの施策・事業が見える化し、その進捗を適時にフォローアップすることで、地域のめざす姿を実現してまいりたいと考えております。本日ご提示したビジョンは現在の案となりますので、本日のご議論や、内容のブラッシュアップを行いながら、策定に向け

た調整を進めていきたいと考えております。

私の方からの説明は以上となります。

### 【檜山振興局 笠井局長】

ありがとうございました。ただいまのご説明に関しまして、ご意見、ご質問などはございますでしょうか。

(質問・意見等なしの声)

よろしいでしょうか。

それでは、次第の「4 意見交換」に入りたいと思います。意見交換に当たりまして、私どもの方で今年度のテーマを「檜山地域のポテンシャルを活かした地域の持続的発展に向けて」とさせていただいております。地域の強みを活かしたまちづくりや担い手の確保をはじめまして、幅広くご意見をお伺いできればと考えてございます。

進め方ですが、最初に各町からご発言いただきまして、その後に関係団体の皆様からご発言いただきたいと考えてございます。なお、議事進行上の都合によりまして、ご発言は一人5分程度としてお願いしたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしく申し上げます。

それでは最初に、江差町の照井町長からご発言お願いいたします。

### 【江差町 照井町長】

江差町の照井でございます。2点私の方からお話させていただければと思います。

1点目は観光についてでございます。今、北海道さん、そして開建さんからもご説明いただいたとおり、観光というのは非常に大きな分野だと思っております。我が町でも、かもめ島周辺を核として、マリンスポーツというものをやりながら地域の活性化、観光客の受入れに取り組んでいるところです。先般、国土交通省さんの「釣り文化振興モデル港」に江差港が認定いただいて、釣りを一つの武器にしながら賑わいの創出に向けて取り組んでいきたいと思っております。また、日本遺産を活用しながら、地域の魅力というのをもっと磨き上げて、多くの皆さんに、特に、にしんによる繁栄というのを感じていただける体制づくりをしていきたいと思っております。そういった中で、道南といいながら、函館を中心とした渡島側との連携が中々できていないのではないかと感じております。檜山管内の中での連携は非常に強くやっているんですけども、やはり観光という分野を考えた際には、函館市を中心として、この道南、渡島・檜山エリアがどのように一体となって取り組んで行くのかという枠組みが必要なのではないかと、特に観光協会などが一堂に会して道南の観光について議論を交わすという場面が必要ではないかと常々考えております。我々の地域は、例えば松前町さんとの歴史的な繋がりが非常に強くありますが、渡島・檜山という枠を超えて連携をすることが中々しにくい分野ではありますので、そういった部分で相乗効果を生むような観光振興を、道南一体となって進められるような体制を創っていくということが必要ではないかと感じております。

もう1点は交通の分野です。この檜山管内、以前は江差線が走っていましたが、10年前に廃線となり、鉄路のない地域となりました。そういった中で、各町様々な取組をしながら、公共交通の維持というところに取り組んでいるところでして、江差町も8月1日から「江差マース」という乗り合いタクシーの事業を始めました。実証実験をこれまで重ねてきまして、実証実験の段階では平日5日間運行していたんですけども、人材が確保出来ないということで、スタートの段階では週3日ということで、公共交通の維持に向けて

も人材不足というところが顕著になっているなど、暮らしを支える、交通を支えるという意味ではしっかり人材の確保をしていかなければならないと思っております。また、公共交通、函館圏との広域のバスはありますけれども、それだけではなく、最近では上ノ国町さん厚沢部町さんと連携しながら、空港とのアクセス改善というところで、この夏をかけて実証運行をしているところでございます。こういった中で、まだまだアクセスという意味では、観光・生活を考える上で、高規格道路の必要性を強く感じるところです。このエリアは洋上風力、そして脱炭素・ゼロカーボンに大きく貢献しようとするエリアでございませう。そういったことと組み合わせながら、高規格道路、交通網の改善ということをしかりと取り組んでいって、函館市民の方にも必要な道路整備であると認識していただけるように檜山側からも発信しなければならないなど、そのためにも檜山側の魅力をもっと磨き上げる必要があると思っております。是非、こういった会議の場で皆様と議論を交わしながら檜山の魅力の磨き上げをしていければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

### 【檜山振興局 笠井局長】

照井町長ありがとうございました。観光面での函館方面との連携、同様に公共交通の面でも函館から呼び込むための道路整備、公共交通の維持確保のための人材の確保についてご意見いただきましたありがとうございます。

続きまして、上ノ国町の疋田副町長お願いいたします。

### 【上ノ国町 疋田副町長】

上ノ国町副町長の疋田と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。本日は、再生可能エネルギー、特に風力発電事業についてお話させていただきます。

檜山地域は強風地帯であり、風力発電に最適な条件が整っています。風力発電事業は、CO<sub>2</sub>排出量を削減し、クリーンなエネルギーを供給するための重要な手段として「ゼロカーボン北海道」の推進にも寄与するものと考えております。檜山地域を含めて日本海沿岸では、洋上風力の有望区域に5箇所が選定され、松前沖については、地域意見の取りまとめが終了し、促進区域の指定及び事業者の公募が行われようとしています。檜山沖につきましても、法定協議会が既に2回開催され、来年には松前沖と同様に促進区域に指定され、事業者の公募が始まるものと思われまう。また、江差町、せたな町では地域温暖化対策実行計画を策定し、再生可能エネルギーを促進するためゾーニングが行われております。なお、上ノ国町では、陸上に22基、約7万kwの風力発電が既に稼働し、更に新たな建設が進められようとしております。陸上風力発電の建設においてもそうでしたが、洋上風力発電建設が始まると地元建設業の参入により雇用の場の創出のほか、管外事業者の旅館や民宿などへの宿泊や地元の商店からの購買などで地域経済は一時的ではありますが向上します。風車の耐用年数はおおよそ20年ですが、檜山地域のポテンシャルからして、風力発電事業は、その後もリプレースしながら続いていくものと推察しております。洋上風力発電は、今は一般的な着床式から今後の技術進歩により浮体式が主流になるものと予想されますので、檜山地域のポテンシャルの高さから、今後ますます規模が拡大していくものと思われまう。これを商機と捉えて、地元企業が風力の保守管理を手がけることができれば、雇用の場はもっと拡大していくものと思われまう。先日、全国的に風車の維持管理を手掛けている旭川市にある株式会社北拓の吉田専務の講演会がありました。風力発電の保守管理は難しい部分が多々ありますが、地元企業が協力して行うことにより十分可能性はあるのではないかと感じました。現に、秋田県では県内の会社が合同会社を設立

して、洋上風力の保守管理業務を手がけていると伺っております。

次に、町で検討している取組をご紹介します。1つ目として、上ノ国町は面積の92%にあたる約500km<sup>2</sup>が森林であることから、森林吸収系のJクレジット制度の取り組みを検討しています。森林を適切に管理し、CO<sub>2</sub>の吸収量をクレジットとして企業に売却することも考えていますが、カーボンニュートラルの実現に向けて取り組んでいる町としてPRしたいとの思いであります。2つ目として、持続的な公共交通を維持するため、スクールバス等を含めた全ての公共交通を1つの体系にまとめて、町内の各種事業者がこの運営組織に参画して、共同企業体として運営する体制を検討しています。超高齢化社会が目前に迫っている中では、公共交通をなくすことはできないものと考えています。今走っている路線バスは空車が目立ちますが、AIを活用したダイヤモンドバス運行と通学、買物などを目的とした定期バス運行を組み合わせ、住民が利用しやすい公共交通を持続的に行うとともに、将来的には電気バスや水素バスなど環境に配慮した自動車による運行を目指しています。資源の乏しい檜山地域においては、洋上風力発電事業を契機にグリーントランスフォーメーションへの取組を推進していったらどうでしょうか。

以上で終了します。

### 【檜山振興局 笠井局長】

疋田副町長ありがとうございます。再生可能エネルギー、洋上風力を中心にメンテナンス業務への参入も期待されること、町の取組として森林吸収源Jクレジットですとか、公共交通については、スクールバス等のパッケージングした確保の方策ということで、ご意見、ご説明いただきました。

私どもも、先ほど説明した政策展開方針で檜山のポテンシャルを發揮していくということをご大きな柱として掲げておりますので、これから策定に向けて皆様のご意見を更に伺いながら、よりよいものにしていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

それでは続きまして、厚沢部町の佐藤町長、よろしく申し上げます。

### 【厚沢部町 佐藤町長】

厚沢部町の佐藤でございます。私からは、交流人口と農業振興ということで2つお話しさせていただきます。

全国的に少子高齢化、人口減少が続くということは今後も想定されるということで、地域を存続させるということに知恵を絞っているわけですが、中々これだ、という打開策が見い出せない状況であります。そんな中厚沢部町では、交流人口、関係人口の増加ということで保育園留学に取り組んでおります。保育園留学を核に交流人口の増加を図り、移住・定住に結びつけていきたいということであります。保育園留学を始めて今年度で3年目になりました。昨年までは保育園留学において利用できる町内の移住体験住宅は7棟でしたが、希望者が多く、今春新たに2棟新築いたしました。更に今現在もう2棟建築中でございます。これが完成すると、計11棟ということで、更に保育園留学の受け入れが増えると思っております。これにより常時10組前後の子育て世帯が厚沢部町に年間を通じて滞在していただいているということになります。現在、年間130組から150組の利用がありますけれども、住宅が全て完成すれば年間200組以上が利用可能になるのかなと思います。この2年間で保育園留学を利用された家族の中で現在3家族が町内に移住をしていただいております。移住に関する問合せも多数寄せられております。来月にも1組移住して来られる方がおります。交流から移住となるとハードルが高いところですが、保育園留学により若い世帯が常時10組程度町内にいるということで町の消費にも貢献いただいておりますので、これからも保育園留学を継続して、交流人口・関係人口の増加を図って、

町の活性化に繋げていきたいと考えているところでございます。

次に農業であります。厚沢部町は農業が基幹産業ですが人口減少に伴う農家の戸数、後継者不足が課題となっております。将来にわたって本町の農業を守っていくためには、優良な農地を維持し、生産量を確保していかなければならないと思っております。そのためには農家個々の経営面積の拡大や、農業の生産法人化を考えていかなければならないです。また、農業従事者の減少に対して、省力化や生産性の向上を図るためにはスマート農業が不可欠だと思っております。本町では、スマート農業機械等に対して、町単独での補助事業を実施しております。しかし、スマート技術を備えた機械の多くが高額であり、今後、普及推進を図る上では、国等の補助事業を活用しながら取組みを進めて行かなければならないと思っております。更に10月1日から、スマート農業技術活用促進法（農業の生産性の向上のためのスマート農業技術の活用に関する法律）が施行されるということでもありますので、この新法も活用しながら本町の農業振興を図っていききたいと思っております。また、本町の農地は中々基盤整備が進んでいないところも多いということもございますので、これからの農業機械等のスマート化に対応するためには、基盤整備も非常に大事だと考えているところでございます。

私からは以上でございます。

### 【檜山振興局 笠井局長】

佐藤町長ありがとうございました。保育園留学、そしてその先の移住、交流人口に関すること、更にはスマート農業の取組みの重要性、そのための基盤整備の必要性といったことに関してご意見いただきました。

それでは続きまして、乙部町の寺島町長、よろしく申し上げます。

### 【乙部町 寺島町長】

乙部町の寺島でございます。よろしく申し上げます。私からは交流人口・関係人口と人の繋がりに視点を当て、当町へ人の流れを作り、また、当町への思い入れを持つような人を迎え入れ、食・観光・情報の切り口で内在している地元の資源をリノベーションの考えにより、新たな価値の創出を図りたいということでお話させていただきます。

まず、食としてのナマコ資源保護のための密漁対策についてです。皆さまもご承知おきかと思いますが、檜山のナマコはイボ立ち、食感で世界最高品質との評価をいただき、超高級中華食材として扱われております。種苗生産、放流等の資源増大に漁業者は取組み、高度な加工により「檜山海参（ひやまはいしえん）」としてGIを取得、ブランド化に成功したものの、高額な取引単価から密漁被害に遭っていることも事実でございます。経済的な被害のみならず、生育途中のものまで乱獲され、資源保護の見地からも対策を講じる必要があります。私どもは北海道大学の学術機関、野村総合研究所（民間シンクタンク）と連携協定を結びながら、北海道市町村振興協会の補助金を活用し、地元漁業者の協力を得て、密漁船が発するインフラサウンドから侵入を検知するという、従来の監視カメラや水中音響検知に比べローコストハイリターンの監視システムの構築を模索しております。昨年度は仮想密漁船から発する音の集音方法、周波数、集音距離範囲の特定を、今年度は仮想密漁船の位置・移動方法の測定と解析を行っているところでございます。

次に観光の観点から、滝瀬海岸シラフラの景観と展望公園の整備についてお話しさせていただきます。こちらもご存じかと思いますが、乙部町南端と江差町との境界近くに白い断崖がおよそ500mに渡って続き、美しい海岸線を形成しております。道南にゆかりの深いロックバンド「GLAY」が熱唱した場所としても注目度が上昇している場所でもあります。また、大手企業複数のCMロケ地としても取り上げられております。従来から展望

スペースとして利用していた敷地を、昨年度から道のお力をいただきながら2カ年計画で公園としての整備を進めております。展望スペースから海岸へ至る高低差約30mの昇降路を建設することで、容易に断崖間近まで行けるようになります。また、トイレ併設の休憩所を作り、ここには特産品販売の自販機を置く予定としております。くぐり岩という珍しい岩を含めたシラフラ海岸を遊歩することにより、滞在時間を延ばし、飲食・宿泊の地元消費拡大を期待するとともに、思い入れを持つ人たちを増やしていきたいと考えております。また、欲張った願望ではありますが、国道から町道を通ってアクセスする際に、万が一オーバーツーリズムにより地域の道路が渋滞するのであれば、関係機関にご相談させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

最後に情報といたしまして、大学のゼミ合宿や市民大学の地域体験講座を当町で実施することにより、普段出会うことのない人と町民が交流する中で、私たち行政を含め1次産業に従事している方や観光業に携わっている方が見落としがちな地域課題の捉え方や最先端の知見という情報を得ようとしています。地元と化学変化を内発させるように我々行政が促し、人と人の繋がりや人材育成にどう結びつかせるかが現状の課題となっております。

私からは以上です。

### 【檜山振興局 笠井局長】

寺島町長ありがとうございます。地域の資源を守るという意味でのナマコの密猟対策、あるいは地域の資源を活用するという意味でのシラフラ周辺整備、あるいは学生ゼミの誘致といった関係人口の取組に繋がるようなご意見をいただきました。

それでは続きまして、奥尻町の田中副町長、よろしくお願いいたします。

### 【奥尻町 田中副町長】

奥尻町の田中です。本日、新村町長が別用務により出席できないため、代わりに私から説明させていただきます。

先ほど疋田副町長からも話があったとおり、管内では洋上風力など再生可能エネルギーの導入に取り組んでいるところでありますが、当町では、地域資源である再生可能エネルギーをフル活用することで実現する「サステイナブル・アイランド奥尻」事業を推進しております。始めに、その取組の象徴となる総合庁舎の建設についてご紹介させていただきます。奥尻町の旧役場庁舎は築70年近くが経過し、老朽化が著しい状況で、防災拠点として必要な耐震基準を満たしていない状況であったため、2018年に建設事業を開始し、本年5月から新庁舎として開庁しました。新庁舎の概要といたしましては、敷地面積9,785㎡、建築面積2,024㎡、延床面積2,721㎡、鉄筋コンクリート造となり、庁舎の一部には奥尻町産のトドマツが使用されており、道産木材を使用した建築物を登録するウッドビルディングに北海道から認定されております。新庁舎は、これまで分散していた議会庁舎、消防庁舎、福祉センターの機能を集約し行政の中心、防災拠点として機能強化を図るとともに、奥尻町の将来を見据え、広く町民に親しまれる「まちづくりの拠点」となっていくことを目指しております。庁舎内は、一目でわかるワンルームと一体的な執務室となっており、入口から入るとすぐに総合カウンターが町民を出迎え、窓口カウンターへ案内後、ワンストップサービスを実施し、快適な窓口対応を実現しています。2階には、議会機能の中心の議場を配置し、多目的ホールと名付け、議会会期以外は、災害時の避難場所など、多目的な利用を想定しております。また、議会の形式としては、先行事例を参考に円形議場とし、マイクや議場設備も刷新し、円滑な議会運営を行っております。新庁舎は、機能性が高く電力効率の良いEHPを中心に、地中熱ヒートポンプ、木質チップボイラー、太陽光発電等、島内の自然エネルギーを積極的に活用しており、効率的な設備計画

と合わせて省エネ設備を含まずにゼロレディを達成し、環境省令和3年度二酸化炭素排出抑制対策事業補助事業にも採択されており、ゼロカーボンシティを宣言する奥尻町の取組を体現する庁舎となっております。また、今年度については、役場庁舎等へのEVスタンド整備と、EV車導入を検討しているところです。まだ視察にいらしてない方は是非いらしていただければと思います。

次に、ブルーカーボンの取組についてご紹介させていただきます。奥尻町は古くからホソメコンブ漁を営んでおり、かつては献上コンブとして重宝された記録もありましたが、見た目や大きさで他のコンブに人気が集まり下火となったことや、天然物は奥尻町の特産品であるウニの餌料として活用されてきました。そのような中で、ホソメコンブの成分を調べてみると粘性多糖類が他のコンブよりも豊富であり、味も良い点が発見されたため、天然資源の保護と新しい特産品の開発を両立するべく協議会を組織し、ホソメコンブの養殖事業を展開することにより、生産活動と共に新たな二酸化炭素吸収源を生み出すことを目指しております。その取組の一環として、ホソメコンブを活用した化粧品の開発にも取り組んでおり、そのオリジナルボトルのデザインを奥尻高校に島留学している生徒にデザインして頂き、8月10日からHACの航空機内で機内販売されることとなっております。また、ホソメコンブを養殖することにより、今月にはJブルークレジット制度実施要領に基づき、プロジェクト登録兼クレジットの認証を申請予定であります。

私からの発言は以上です。

### 【檜山振興局 笠井局長】

田中副町長ありがとうございます。奥尻町の新庁舎の取組をご紹介いただきました。私も新庁舎を拝見いたしまして、様々な脱炭素の取組のシンボルとなるような建築物だという印象を得ました。また、昆布を通じたブルーカーボンの取組もご紹介いただいたところでございます。

それでは続きまして、今金町の中島町長、よろしくお願ひします。

### 【今金町 中島町長】

今金町の中島でございます。よろしくお願ひします。

本日のテーマが「檜山地域のポテンシャルを活かした地域の持続的発展に向けて」ということで、今金町は農業が基幹産業で、基盤整備ということであれば国営緊急農地再編整備事業の推進をしております。11年目を迎え、南地区、北地区の90%が終わり、来年で終わる予定です。北海道内18の自治体が21地区でこの国営事業を推進しており、まだ多く手が挙がっているということです。この事業による効果はもちろんスマート農業の推進ということがありますが、非常に大きな土地の整備であっても、GPSを使って数cmの違いしかでないということでも現在も整備を進めているところです。ただ、基盤整備だけで人口減少が止まるかという別問題です。ふるさと納税をみても、海のある地域と比べると農業山村地域は加工品がないということで、金額の伸びがないという実態があります。今金町については現在森林に着目しており、林業の6次産業化を目指しているところです。ご存じのとおり林業の1次産業としては伐採・管理、2次産業になると木材加工、3次産業だとその加工品の流通販売ということになりますが、当町は1次産業止まりで中々製造から販売までいかないです。しかし、町の8割は森林でありますし、SDGs・ゼロカーボンを考えると非常に大きな要素であるということで、1次産業から3次産業までをまとめて出来るような地域商社を3年計画で作りたいと考えております。ですので、今金町の森林のポテンシャルを探っているような状況でございます。いずれにしてもどの町でも人口減少が課題となっております。先ほど他の町長からも話がありましたが、観光でもそ

うですが1町でやる時代ではなく、また、競い合うのではなく、隣町と共有したりということが必要な時代だと思っています。元々圏域を超えた、八雲、長万部、せたな、今金の4町連携は推進させていただいており、災害対応や新幹線の開業に向けた様々な連携をこの4町で足並みを揃える予定でありました。また、今金町ではつい先日、札幌国際大学の学生が美利河地区にフィールドワークで来たり、来月になると東洋大学の学生が30名ほど地域の課題を題材にフィールドワークを行う予定ですが、これがどこに繋がるのかというところが難しいところで、この点も含めてしっかりまとめて、連携をしていきたいというのが現状でございます。

次に町村会の方でも話題となっております外国人就労者についてです。各町においてもだんだん増えてきていると聞いております。檜山のポテンシャルの一つとして、様々な場面で外国人の方が地域にしっかりと根付いて、それが人口減少対策にも繋がるように振興局にも指導していただきながら、各町バラバラというよりは、檜山としてどう取り組むかということをご指導いただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それから、せたな町と今金町に跨がる道南で唯一の1級河川である後志利別川を有しておりますが、こちらは産業の面でも非常に大切な河川であります。時には災害関係についてもしっかりとやらなければいけません、一方では、この清流を守ることもまちづくりに繋がるということで、「第1回清流まつり」を開催いたしました。また、いつになるかわかりませんが、是非、せたな町と奥尻町を結ぶフェリーを再開してほしいと思っております。これはかなりの要望があって、ルートの開拓というか従前のようにできればなということ、7町の中で出来ればと考えております。

色々話をさせていただきましたが、林業の6次産業化に真剣に取り組みたいと考えておりますので、振興局、そして開発局の方にもあらゆる場面でお世話になると思いますのでよろしく願いいたします。

私からは以上です。

### 【檜山振興局 笠井局長】

中島町長ありがとうございます。林業の6次産業化に向けて地域商社の展開という新たな試みについて、ご説明、ご意見いただきました。更には、新幹線の札幌延伸をとらまえて、周辺の町とも連携を深めていくということでご意見いただきました。先ほど説明しました道南連携地域政策展開方針の中でも、新幹線の開業を見据えた取組ということであげておりますので、具体的な事業の推進に当たっては皆さまと連携させていただきながら行いたいと思っております。それから、外国人についてもご指摘いただきました。北海道の中で5万人ほど外国人の方がいらっしゃるって、500万人のうちの1%くらいなんですけれども、20~30年経つと10%くらいになっていくと見込まれています。檜山地域もおそらく働きの担い手という観点から更に増えていくと考えておりまして、今年度も私どもの取組として外国人実習生等に関連した取組をしておりますし、今年度後半もしていこうと思っておりますので、こういったことについても相談させていただきながら、事業を進めていきたいと考えております。

それでは、せたな町の佐々木副町長よろしく願いいたします。

### 【せたな町 佐々木副町長】

せたな町副町長の佐々木でございます。どうぞよろしく願いいたします。

本日、本来ですと高橋町長出席ということですが、所用により出席できないため、代わりに私から今回のテーマに沿って2点ほどお話をさせていただきます。

1点目は、上ノ国町さん、奥尻町さんからもお話ありましたが、再生可能エネルギーの

推進についてでございます。2020年10月に政府が2050年カーボンニュートラルを宣言いたしましたして、2030年温室効果ガス46%以上の削減目標を掲げ、産官学民一体となった取組が進められているところでございます。ご承知のとおり檜山地域は、風力、太陽光、地熱、温泉熱などの利用ポテンシャルを有する自然豊かな地域でございます。それらの地域特性を活かした持続可能なまちづくりにいかに繋げていくかが課題だと考えております。そこで本町の取組についてご紹介したいと思っております。

本町においては環境省の補助事業により、せたな町地域エネルギービジョン並びに再生可能エネルギーゾーニングマップを策定し、昨年3月に公表いたしました。また、せたな町地球温暖化対策実行計画の区域施策編を昨年11月に策定し、公表しております。環境省にもご協力をいただきながら、促進区域や目標の設定、環境保全のための取組、地域経済及び社会の持続的発展に資する取組などを整備しております。促進区域の設定におきましては、広域ゾーニングマップに太陽光の他、陸上風力の促進区域も設定し、町内における風力発電や太陽光発電の導入ポテンシャルを整備いたしましたして、今後の更なる再エネ導入を目指すものとしてございます。このことから令和6年度の取組といたしましては、町内16の公共施設における太陽光の導入可能性調査を行いまして、来年度以降の太陽光パネルの設置をPPAあるいはリースなどにより実施したいと考えております。また、事業者が進める太陽光や陸上風力の推進につきましては、地域共生が最も重要と考えておりますので、地域に裨益する再エネ事業となるよう、電力の地産地消など実行計画に沿った取組を進めているところでございます。

2点目は産業の育成についてでございます。産業の育成を目的に、町の単独事業によりまして、令和6年度から令和8年度までの3年間において、農業では、スマート農業支援事業ということで、農作業の省力化、労働力不足の解消と生産性の更なる向上に取り組んでまいります。水産業では、水産物生産性向上事業によりまして、経営規模の拡大や新規漁法への挑戦など、漁獲量の確保及び経営の安定化を図ってまいります。商工業では、次世代型店舗づくり事業といたしまして、キャッシュレス決済の導入、店舗環境整備、省エネ対策を講じることで、業務の効率化やコスト低減を目指してまいります。これらの取組を推進することで、農水産物の安定供給とともに、加工品などの特産品を増やしまして、返礼品によるふるさと納税の増額に繋がりたいと考えています。また、人口減少による高齢化や担い手不足により新たな取組が出来ない事業者もおります。地域おこし協力隊事業所派遣事業を検討してございまして、運用に向けた調整を進めてまいりたいと考えております。

せたな町からは以上でございます。

### 【檜山振興局 笠井局長】

佐々木副町長ありがとうございます。再エネ推進に関連しまして公共施設への太陽光発電の導入、それから産業振興ということで農業、漁業、商業の振興策の取組についてご紹介いただいたところでございます。

続きまして、関係団体の皆様からご発言をお願いしたいと思います。始めに、檜山建設協会の小林会長、よろしく願いいたします。

### 【檜山建設協会 小林会長】

檜山建設協会の小林です。よろしく願いします。

洋上風力発電は再生可能エネルギーの導入拡大の切り札として注目されておりますが、「建設産業ミライ振興プランHOKKAIDO」2024年度推進事業の中で、新規に洋上風力に係る支援事業が加えられております。現状の協会の環境は、本業強化を重視し、新

分野への支援ニーズは減少している中で、洋上風力に関する人材育成等は事業規模の大きさに圧倒され、限られた情報に集中、関心を持つには少し時間を要する気がします。先日、振興局の開催で洋上風力関連の勉強会がありましたけれども、その参加が協会会員にとってはスタートだと思っております。大事業の中で、末端のポジションかもしれませんが、先進地視察等、積極的に研修参加を求め、地元企業参入の可能性を模索していかなければなりません。できる限りハイスピードで情報収集に努め、タイムリーに会員へ周知を図りたいと思っております。同時に、地元還元という考え方に、住民、関係者の理解・協力のもと、積極的に賛同する団体であることはいまでもありません。また、ミライ振興プランですが、その中で建設業の取り巻く現状から始まり、総括では1つ経営力の強化、2つ担い手確保・育成の強化、3つ地域の安全・安心の確保、4つ建設産業の環境整備となっております。当協会といたしましては、詳細を含め、実態にマッチした資料であり、全員に周知してまいりたいと思っております。抜粋して2つ目の担い手の確保について述べますと、令和3年度に道内1000社へのアンケート調査をし、技術者及び技能労働者が約8割の企業で不足しており、技能労働者がかなり不足しているとする企業は、その比率が技術者よりも高いです。また、現場労働者の高齢化や人手不足が言われておりますが、技能労働者の職種ごとでは圧倒的に普通作業員と重機オペレーターが不足している現状であります。発言の内容が一変しますが、常日頃から協会会員には地域性高くあれと発言しております。そんな中、協会では新しい活動を計画しています。各町には名称の違いはあれど、札幌人会や東京人会のようなものがあり、地元アピールの場だと思っております。積極的に協会会員の参加を呼びかけ、地元の実情を知ってもらい、老若男女へのSNS等での呼びかけ、檜山フェアなどのイベントへと発展できれば幸いです。これはあくまでもUターンへの呼びかけで、雇用対策についてであります。昨年発言した高校生と地元企業との密接な関係性の構築と重なる発言かもしれません。

とりとめのない話ですが、私の発言とさせていただきます。ありがとうございました。

### 【檜山振興局 笠井局長】

小林会長ありがとうございました。洋上風力に関しましては、先ほど疋田副町長からも言及いただきましたが、保守管理の関係で先進企業にご講演いただいたわけですが、そういった地元企業の参画とか、地元の参入機会を私どもの方としても確保していければと思っておりますし、これからも関連する取組を進めていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。それからもう1点、人手不足対策という観点での、各町の札幌人会等の場の活用についてもご意見いただきました。高校生の就業というところもご協力いただきながら、私どももPRに取り組んでいます。今、檜山の外にいる方には、檜山の魅力に気づいていただいて、機会があれば檜山に戻ってきていただくということは重要で、そのためのバックグラウンドとしての関係人口づくりも重要だと思っておりますので、いただいたご意見を参考にしたいと思います。

続きまして、道南地方木材協会の春山専務理事よろしくお願いたします。

### 【道南地方木材協会 春山専務理事】

道南地方木材協会の春山でございます。私の方からは林業木材製造業の立場からお話させていただきます。

現在の需要状況はというと、数年前のウッドショックに伴い、外国材の輸入が難しくなり、国産材への期待の高まりから木材価格が急上昇してしまったのがもう2年前になります。昨年からは値段が下がってきていますが、本州の方では北海道材は高いというイメージが付きまして、本州方面への移出が滞るような状態になったということがあります。一

番大きなところは木造住宅の着工数で、令和3年度に比べるとまだ7割程度しか回復しておらず、住宅を建てる方も木材が高いというイメージがついてしまっています。住宅の中でも木材の価格はそれほど大きく占めるほどでもなくて、他の設備などが高騰していることによって、結果的に住宅が高くなったということがあると思います。そのために、建築材や合板材の取引が大幅に減りまして、国有林材の販売もやっているんですけども、ほとんど落札出来ていません。地元の製材工場の方にしても、スギ材、カラマツもほとんど出しておらず、製品が売れないものですから、原木の仕入れもできない状況が続いています。一般民有林の方でも伐ったものが製材工場に入らなかったり、函館港からの輸出にもって行くという状況があります。中国・韓国向けは徐々に増えてきてますけれども、本州方面への合板材は、合板工場の方が制限をかけて入荷できないような状態です。もう一つ本州方面では、北海道のカラマツではなく、本州のスギを利用して合板材を作っているとのことで、道南スギを持って行ける工場が狭まってきているという現状です。

北海道の新たな話題としては、釧路市に愛媛県の会社の集成材工場が建設されるということです。3年後に開設予定で、最大30万m<sup>3</sup>の消費量を予定しているとのことです。規模感が分かりづらいかと思いますが、渡島檜山の令和4年度の伐採量が42万m<sup>3</sup>くらいで、30万m<sup>3</sup>の消費量は丸太の消費量なので、立木に換算すると大体42万m<sup>3</sup>になります。ですので、その工場は渡島檜山で伐採する全ての木材を処理できるということで、道内の製材工場が反対するわけではありませんが、製材工場としては自社に材が入ってこないのではないかと、造材業者としては持っていくところできたということで、釧路ですが道南スギも取引したいという意向がありますので、道南の製材業としては釧路にできるのでそれほど影響はしませんが、造材業者にしてみればそちらに持って行けるとい期待も多く見られると思います。

今回のテーマに鑑みますと、檜山管内の森林面積は80%を超えますし、ヒバ・ブナ・スギなどの様々な種類の森林があり、ダム周辺などの森を利用した体験・学習できる場がたくさんあると思いますが、中々それを活かしてきてないのではないかと思います。実際に森を活かすには伐採したりしなければなりません、地域の中で森づくりですとか、そういった体験をしてもらうことが大事かなと思います。もう一つとしては、各町持回りで毎年植樹を実施しているということですが、植樹の方は皆さん参加しますが、植樹したあとの手入れですとか、保育関係にも興味を持っていただければと思います。木材利用については、奥尻町さんから話があったように公共建築物等には木材を取り組んでいただいておりますが、1度建てると何回も建て直すわけではありませんから、木材の継続的な利用は難しいと思っております。私個人としては、ホテルなどの内装材に使って貰えたらいいなと思っていて、道から働きかけはしているかと思いますが、そういったところから少しでも木材利用の推進に繋がればいいと思いますし、最近ではコンビニでも木材を使ったものですとか、非住宅への木材利用も期待しておりますので、皆様のご協力をお願いしたいと思います。

以上でございます。

### 【檜山振興局 笠井局長】

春山専務理事ありがとうございました。木材産業の最近の動向の紹介、檜山地域は森林が8割を占めていて、かつ、樹種も豊富ということで、そういった点もとらまえて更なる木材利用の推進が図られればよいのではないかとこのご意見だと思います。先ほど田中副町長からもご紹介いただいたんですけども、道産材をふんだんに使っただけの建築物は、「HOKKAIDO WOOD BUILDING」ということで登録させていただいております。今年度に入り、江差町さんの「エコー」、奥尻町さんの新庁舎の2つ認

定され、檜山としては去年まで0だったのに対し、2に増やさせていただきました。ありがとうございます。道内においてはまだ0という地域もございまして、私どもとしても引き続き道産材を活用した建築物の整備ということを色々な場面で働きかけをしていきたいと思っております。北海道全体で見ると、ご指摘あったようにコンビニとかもあるんですけども、檜山管内で新たに建築物が出来る場合には、そういった働きかけをして、道産材の利用拡大を我々としても頑張っていきたいと思っております。

続きまして、檜山管内商工会連合会の櫻井会長よりよろしくお願いいたします。

### 【檜山管内商工会連合会 櫻井会長】

檜山管内商工会連合会の会長を務めております櫻井です。よろしくお願いいたします。

まず商工会から見た全体的な考えとしては、檜山管内は人口減が一番の問題かと思っております。主力産業は1次産業ですが、農業はそこそこの生産力を持っていますけれども、漁業に関しては非常に生産力が低下している状況です。全体的な経済の活性化がもう少し伸びていかないことには、商工業の発展にも繋がらないという状況でございます。人口減に関しては、全国的に起こるものなので、人口減よりも、いかに人口を維持していくかという取組が檜山全体として必要になってくるのではないのでしょうか。先ほど中島町長さんからもありましたように、檜山は北海道としても一番人口の少ないところですので、これを逆手に取って、いかに連携プレーを密に取り、特に人口減対策について振興局を中心として、皆さんの力を結集できるような、年間で幾度も会議を開けるようなシステムを作って、人口はやはり経済の活性化や1次産業の活性化にも繋がりますから、檜山のポテンシャルを活かすということであればこの点に力を入れていただければいいのかなと思っております。経済の活性化につきましては、檜山はご存じのとおり大きな企業はありませんが、そうした中で風力発電が浮上してきましたので、これを檜山の全体的な悲願として物事を進めて行く。これによって、風力発電を活用した養殖事業など、漁業者に対する活性化などにも是非取り組んでいただきたいと思います。1次産業の活性化については、各町長さんが言っているとおり、スマート農業の取組や漁業の養殖を含めて、明日すぐ出来るわけではないので、長い年月をかけて培っていかねばならないものだと思います。経済の中でも人手不足という部分は、小さな檜山の中でも随分と問われてきておりますので、振興局にお力添えいただいておりますが、より一層これに注視していければいいのかなと思っております。

全体的に私は、檜山のこれからの在り方としては商工業の活性化。色々な連携プレーをして、皆様のお力添えをいただきながら、小さな振興局で人口の少ない中で、逆にそれを上手く活用できるようなシステムづくりを前に進めていただければ幸いですので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

私からは以上です。ありがとうございました。

### 【檜山振興局 笠井局長】

櫻井会長ありがとうございました。人口減少の中でいかに人を維持していくのかということで、ご指摘のとおり檜山は北海道の中で一番人口の少ない地域でございます。だからこそ逆転の発想で、関係者の連携プレーが大事だというご指摘いただいたものと思っております。また、経済面では洋上風力を活用して養殖事業に活かしていくとか、各種産業振興についてもご意見賜りました。振興局としましては、今までも各町と連携させていただいていると思っておりますが、より一層密に連携をしながら様々な取組、檜山の将来に繋がる取組を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

皆様ありがとうございました。これで一通りご意見いただいたところでございますけれ

ども、全体を通じまして、この際にご意見、ご質問等ありましたらご発言いただければと思いますがいかがでしょうか。

(質問・意見等なしの声)

よろしいでしょうか。それでは私ども事務局といたしましては、本日いただいたご意見を踏まえまして、取組を進めていきたいと思っております。

それでは岡下部長の方から総括ということで一言よろしいでしょうか。

### **【函館開発建設部 岡下部長】**

長い時間大変お疲れ様でございました。

私どもの北海道総合開発計画では、「食」、「観光」、「脱炭素」といった3つの柱を立てております。私は、渡島檜山という道南地域はまさにこの3つが揃っているという地域だと思っていますし、この3つの強みを磨いていくともっと光が差してくるのかなと個人的には思っております。一方で、本日もお話あった少子化ですとか人口減少といった面では厳しい地域ではございますけれども、各地域にある課題に対して、資源、人材も限られてはいますが、最大限活用していくこと、また、そのためにも色々な関係者が「共創」という話をしましたけれども、そういった視点で取り組んでいくことが大事だと思しました。洋上風力の話とか、開業時期は未定ですが新幹線の話で、これから八雲と長万部にも駅ができるということで、道内を見てもこのような地域は道南だけとなっています。そこを最大限活かしていかなければならないと思っておりますし、先行している他地域から色々学んで、最大限享受できるように取り組んでいく必要があると思っております。私どもも、インフラ整備を通じて皆様の取組を下支えしていかなければならないと改めて感じたところでございます。本当に今日は長い時間ありがとうございました。

### **【檜山振興局 笠井局長】**

岡下部長ありがとうございました。それでは私の方からもお話をさせていただきたいと思っております。

非常に多くのご意見、取組のご紹介いただきました。ありがとうございます。人口減少が進んでいく中で、これにどのように対応していくかということの基本としながら、具体的なことでいうと、洋上風力などの再エネの取組の推進、そうした場面への地元企業の参入などについてご意見いただいたところでございます。脱炭素の取組に関連しまして、森林吸収源のJクレジット、ブルーカーボンの取組にもご意見いただきました。また、渡島地域と連携した食や観光の取組の推進、更には交流人口、関係人口の拡大に向けた取組の重要性、産業の振興という意味では、農業、漁業、林業、商工業の振興、それら全てに共通する公共交通の確保などの取組の重要性についてご意見いただきました。いただいたご意見を踏まえながら私どもの地域の道南地域政策展開方針の策定作業を進めていきたいと考えてございます。冒頭に北海道総合計画の目指す姿ということで、「北海道の力が日本そして世界を変えていく 一人ひとりが豊かで安心して住み続けられる地域を創る」ということで、今日お配りした資料にも記載ありますが、北海道の力というのがまさに北海道の持つポテンシャルのことで、日本だけでなく世界を変えていくことにも繋げていきたいということで、ポテンシャルを発揮することが、これからの時代に住民の方々が安心して、かつ、豊かで住み続けられる地域を創ることに繋がるのではないかという考えを表したものであります。人口減少も進んでいるんですけれども、非常に大きなポテンシャルを持つ檜山地域はこの考え方に基づいて各種の取組を進めていく適地であると思っております。

す。振興局といたしましても、開発建設部、各町、関係団体の皆様とこれからもしっかりと連携させていただいて、檜山地域の発展に向けて各種の取組を進めていきたいと考えております。その際には、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

最後になりますが、本日の会議全体を通しまして何かご意見、ご質問等ございますでしょうか。

(質問・意見等なしの声)

よろしいでしょうか。それでは皆様には長時間にわたりまして、議事進行にご協力をいただきますとともに、貴重なご意見等賜りまして誠にありがとうございました。今後とも皆様と様々な機会を通じて意見交換をしながら、地域づくりを進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして、令和6年度檜山地域づくり連携会議を終了させていただきます。本日は大変ありがとうございました。

【了】

# 令和6年度 檜山地域づくり連携会議 名簿

日時：令和6年8月8日(木)14:00～  
場所：江差町文化会館小ホール

## 【構成員】

職名	氏名	備考
江差町長	照井 誉之介	
上ノ国町副町長	疋田 英夫	代理出席
厚沢部町長	佐藤 正秀	
乙部町長	寺島 努	
奥尻町副町長	田中 敦詞	代理出席
今金町長	中島 光弘	
せたな町副町長	佐々木 正則	代理出席
北海道開発局 函館開発建設部長	岡下 淳	
北海道檜山振興局長	笠井 敦史	

## 【参画団体】

団体名	職・氏名		備考
檜山建設協会	会長	小林 誠	
道南地方木材協会	専務理事	春山 邦明	代理出席
桧山管内商工会連合会	会長	櫻井 明雄	
檜山地区町社協会 連絡協議会	会長	林 一夫	
ひやま漁業協同組合			欠席
今金町農業協同組合			欠席
新函館農業協同組合			欠席

## 【オブザーバー】

団体名	職・氏名	
檜山町村会	事務局長	吉田 宏幸